

反戰公議通

信

NO.12  
'68.11.26

東京教育大學

キラ教育大の全との学友諸君、とりわけキラ全體  
斗の旗を堅固として堅持して居る最も戦斗的学友諸  
君、つぶやきで汽笛多矢実力組二十仲間にて

して二のことは文字通り東大銀杏並木として圧迫的にみちとられ上るのである。

学当局の軍艦收捨策動、僕柔と敵対のス一ト破壊策動  
そして日共リ民青の「全学協議会設置」路線として  
右翼的ニ定式化された「學園民主化」斗争の執事々  
組織化、そして農學部におけるス一ト反対派學生の組  
織的台頭とリラ形をもつて、反革命の公然たる登場  
を生み出すに至つた。學友諸君今や我ロは、この施  
設移転阻止をバリケード死守をもつて断乎として罷  
職するのか、それともあらゆる軍艦收捨——ス一ト收  
捨策動の前に屈服するか、その選択が極めて厳しく  
向われてゐる。學友諸君、革命か反革命か、その岐  
路にこそ今我ロは立たされこりるのである。

東大斗争勝利 日大斗争勝利 全国学生  
総決起大会の圧倒的、成功

自尊・愛國精神にむけ一層バク進するとき、対文學部長との國父を契機に、東大斗争には加ト学長代行リ大学当局が説し各の路線リ事態收拾第初と日共リ民者による「學園民主化」レリ「全學協議会制」レリ「東大斗争」の勝利を保証する一切の思想的鍵は「東京帝国主義入学を徹底的に破壊しつくせ」以外の何ものでもない。それ以外の如何なるものにせよ、一度幻想を抱いた瞬間に、敗地への一步が始まる。こうした思想は武装しきれず「大學自治の革命的強化」を訴える宋全共斗を曰大空共斗は批判した。「東大はまだ破壊されたりない」まさにそのとおりだ。だからこそ「此斗争は、曰大斗争の革命的基礎を東

た。第二に、大学当局と政府文部省の弾圧に対し、眞向から対抗し更に斗争を前進させようとする(モ)斗争の過程の中で大衆的に叫聲され孤立していく(モ)日共(モ)民青が、自らの政治的破壊と敗北を至日から动员した私設暴力団によって軍事的打撃することによって自らのヘガモニーを奪還しようとした暴力的斗争破壊に対し、全国のうう学生が總結集する(モ)ヒによつて、こうした反革命を粉砕することによって東大斗争を防衛し、勝利への突破口を保証する(モ)とに第二の意義があつた。そして第三の意義はこの斗争は、全国学園斗争勝利・七〇年安保斗争勝利への(モ)斗争主体の立ちを大きくキラ部隊の大統一戦線と大統一行動として実現する(モ)ラニと西あつた。そ

しここのことは文字通り東大銀杏並木の集会として圧迫的にかちとられたのである。

ビグレガシ、わが全学斗自身はこうした巨大なノック斗争の意義について徹底的には理解しきつてはいるなかつたといふことを我々は指摘せざるをえまい。するわち、全学斗自身は確かにノック斗争を上記の如き巨大な意義をもつものとして提起はしこいたものの、当日动员に対するイメージは極めて悪く、實際、动员そのものは、東洋史クラスを除いては、予定の半分も动员できていらない。又共學同系諸君が前日において、「22日たやること」といふ意味がある「」といつ形において國書館封鎖をめぐる東大全共斗の支援要請に対して断乎として原則的立場を堅持しこいたにもかかわらず、当日朝になつて、「國書館封鎖が費行された」という報道じ、中大のブンデガ出席したというデマ宣伝の前に動搖し、急券行動ち金を転換して、中大における大結集一日大空共斗との呑流一東大本郷へかけこの大進軍といふ路線から脱落してしまつた。ことの一切の根柢は、彼らが22斗争の意義を理解しきれていなかつたという点につきる。そもそも図書館封鎖といふこと自体、今日の大統一行動が設定されることによって東大内部に坐共斗ヒロ共々民青のテロとリンクの支配から疎遠に逆転してしまつたといふことを媒介にして始め、おしえせごとがあつて、そのことによつて動搖することとは、図書館封鎖のみならず東大斗争はさも自分たちをやつこいるのぞといふようなセワリト的な対応をもつて極めて矮小な認識しかもちあめせてしまふ。と、22日斗争における発言にみられたように、他党派の批判にのみ終始し東大斗争勝利への展望を語りだ。更に付け加えておくならば、全学斗として参加した我々教育大の発言が、何故に全学斗代表としての発言ではなく、文自由代表の発言であつたのか?!

革命と破壊の思想で自らを武装し、  
る反革命を徹底的に粉碎せよ。▼

鷹尾文相の発言を前後して、学長回答をはじめ  
とし、文学部・教育学部・農学部の各教援会から  
様々な申述収拾のための試案が提起されてゐる。  
こうした話し合ひ路線への傾斜の一方にありては  
理学部教援会が軸強引系を中心にして、本日の朝  
日新聞朝刊報道のような「授業用席」とリラ極め  
て競闘するデマ宣伝がなされたり。日本学友諸君  
我々たゞ頑固なるためのなり事譲られたり。それは

セセセ地への道を掃き去るだけである。

一方において、こうした大学当局のスト破壊策動に迎合し、我の斗争を圧殺しようとするものとして、日共リ民青によつて「学園民主化」——「協議会設置」詔し合ひへの介入といらものが主張される。だが學友諸君、我々は諂ひを求めてはならない。ただ一端、東波移転白紙撤回をこそ求めこそり。本質的には敵対関係にある大学当局リブルジョアジーの論理と学生リアロレタリアーの論理の中で諂ひ合ひの中から何とかが生み出されるかのようないい想の下に我の斗争を歪曲し拘死せしめこられればならぬ。ストの徹底した長期化リ大学の徹底した破壊の中にこそ勝利への道があるし、そのことを通じて我々は、帝国主義大学としての教育大を日本帝曰々打仔の、現在的には安保粉碎、沖縄奪還の強固な拠点へと上昇せしめていく必要があると考えられる。

學友諸君、あらゆる反革命と暴力的スト破壊策動に抗し粉碎しバリケードを断ちとして防立せよ。我々反戦会員は一貫してこの斗争の先頭にいる日共ラ